

第61回 LAURUS

# 東日本実業団 陸上競技選手権大会

DAY1

5/  
18  
SAT

DAY2

5/  
19  
SUN

会場：熊谷スポーツ文化公園陸上競技場



## 10000m

18  
SAT

*Suzuki Chiharu*

鈴木 千晴 選手

34分09秒43 9位

一週間前の仙台国際ハーフマラソン大会に続き、2週連続でレース出場に臨む鈴木選手。スタートから落ち着いた安定の走りで臨むものの、後半のくらいつきはもう一步。チームはこれから夏期練習を積み、5か月後にはいよいよ駅伝シーズンに突入する。チーム目標である駅伝上位入賞をめざし、主将としてしっかりまとめてもらいたい。



*Sasaki Mei*

佐々木 芽衣 選手

34分46秒21 14位



10000mは2度目の挑戦。スタートから集団前方で積極的な攻めの走りをするが、後半はスタミナ不足かペースダウン。まだ19歳。どんどん力をつけて再チャレンジを期待したい。

# 3000mSC 19 SUN

## 3000m障害(SteepleChase)

平均台に類似した形状の障害物を計28回、障害物の着地点に水濺があるものを計7回通過しながら3000メートルを走るタイムを競う陸上競技の障害走。

*Otsuka Rio*

大塚 理央 選手

12分09秒47 4位

3000mSCは2度目の挑戦だが、前半の水濺で全身でダイブしてしまった大塚選手。一気に体が重くなってしまった様子で、目標タイムから1分以上遅れてのフィニッシュとなった。



課題はメンタル面の強化。



# 5000m

*Mary Sipuko Manela*

メリー シプコ マネラ 選手

16分22秒74 9位

「調子はいつもどおり。いつもと変わらず普通です。」と話していたメリー選手。

今回のレースに満足することなく、まだまだ練習を重ねて強くなってほしい。メリー選手ならできると期待しています。



## Sasaki Rui

佐々木 瑠衣 選手

17分02秒71 36位

スタートから集団前方で強気の走りで臨み、順調にレース展開を進めるも3500mでまさかの転倒。アクシデントにも負けず、ゴールまで諦めない粘りの走りを見せた瑠衣選手。課題にしていた中盤からの弱さにも強く向き合っていただけに悔しい結果となった。



「練習でも転倒はあるし、怪我もしていないので大丈夫です。気持ちを切り替えてまたがんばります。」



## Tayama Mari

田山 満理 選手

17分10秒73 40位

昨年度は故障もあり大会出場を控えていたが、今年度に入り3度目の大会出場。レース後に「走るのってこんなに難しかったかな。」と自分自身と向き合い振り返るシーンも。練習と本番のギャップにもどかしさを感じているよう。自身の弱い部分にしっかり向き合い、プラスに変えてほしいと期待しています。



## たくさんのご声援、ありがとうございました!

今回の大会には、足に不安や違和感を抱えている選手以外の約半分の選手が出場しました。転倒や先頭集団から離されるなどの可能性はいつでもあります。そのトラブルを言い訳にしている結果につながりません。そして、それは選手自身が一番痛感しています。

伸びしろのある選手、チームです。明日からは当たり前の練習を当たり前にこなし、その上で危機感を持ってトレーニングを積んでいきます。そして、チームの目標である駅伝で結果を出します。



Kitamura Satoru

北村 聡 監督